公益社団法人 全国大学体育連合

平成27年5月7日

スポーツ・クラブ統括組織と

学修支援・キャリア支援に関する調査結果ダイジェスト

大学運動部学生の学修支援とキャリア支援については、大学教育の質保証の観点から社会的関心が高まっている。そこで、運動部学生へ対する学修支援・キャリア支援に関する意識と実態を全国的に把握し、大学が連携して取り組む可能性を検討するために、朝日新聞社と共同でアンケート調査を実施した。

調査の概要

調査期間:平成27年2月1日から2月27日

調査校 :全国の大規模大学および体育系大学、体育系学部を有する大学、計 110 校

有効回答数:92 大学(84%)

結果報告:本ダイジェストは全国大学体育連合ホームページに掲載中。

報告書は『大学体育』105 号に掲載予定。

結果1 クラブ活動への大学の期待は、「人間的成長やリーダー養成」「学生生活の充実」など。 クラブ活動に期待する効果について示したものである。「運動部学生の人間的成長やリーダー養成」と回答した大学が 88 校(96%)と最も高かった。

1. 運動部学生の人間的成長やリーダー養成	96%
2. 課外スポーツ全般の活性化	89%
3. 一般学生も含めた学生生活の充実	88%
4. 社会における大学のイメージやブランドカの向上	85%
5. 学生や教職員の愛校心の醸成	82%
6. 学生の父母や同窓生のイメージやブランドカの向上	74%
7. 受験者数の増加	62%
8. 国際競技力の向上	27%

※複数回答あり

結果2 スポーツ推薦制度と強化指定クラブは約9割の大学が設けている。

「スポーツ推薦入試制度がある」大学は80校(87%)、「強化指定クラブとして重点的に強化を行っている」大学は79校(86%)で、一般大学も含む大学全体ではどちらも3割であったこと(大体連「課外スポーツ活動支援に関する調査」2014年)と比べると圧倒的に比率が高い。また「学生寮を設けている」大学は51校(55%)であり、クラブ活動への期待がこれらの強化策に反映していることが示唆される。

結果3 運動部学生への学修支援は約7割が必要性を感じており、様々な取り組みをしている。

クラブに所属する運動部学生に特化した学修支援の必要性について、65 校(73%)が「感じる」と答えている。主な支援内容は以下の通り。

-	上 6 大阪 1 日 6 5 7 1 4 2 7 6	
	1. 試合などで欠席した場合の配慮	59%
	2. 運動部学生向けのクラス編成	19%
	3. 練習時間に配慮した時間割編成	19%
	4. 運動部学生向けの授業開設	14%
	5. 運動部学生向けの個別学修支援	13%
	6. 運動部学生向けの補習教育	8%
	·	

※複数回答あり

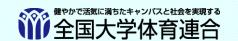
なお、運動部学生への全般的な指導・支援としては、以下の回答があった。

- ・スポーツ推薦入学者を対象に、学生生活部と共に面談を行う。(関東、私立大学)
- ・体育会研修会、体育会学生就職ガイダンス、リーダー研修会の開催。(関東、私立大学)
- ・運動部学生を対象とした就職活動セミナーの開催。(関西、私立大学)
- ・授業支援グループによる文書作成能力向上講習会。(関西、私立大学)

結果4 運動部学生が学業不振の場合の指導や参加制限など行っている大学は約4割。

運動部学生が学業不振の場合、指導・警告・参加制限などを定める規定を「全クラブで設けている」「クラブ単位で設けている」と回答した大学は合わせて34校(37%)であった。規定がない大学は合計46校(50%)であった。なお、運動部学生の留年率や中退率については、どちらも約7割が把握していない。

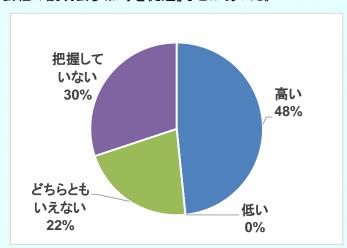
1. 全クラブで設けている	8%	37%
2. クラブ単位で設けている	29%	
3. 現在はないが、検討している。	15%	50%
4. 現在もないし、検討もしていない。	35%	



結果5 約5割の大学では、運動部学生の就職率は一般学生よりも高い。

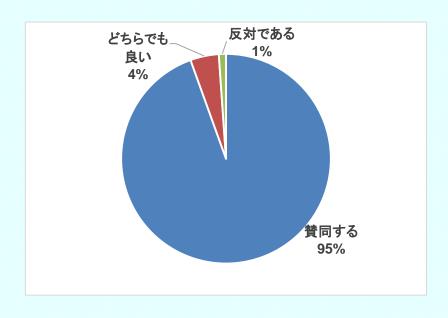
一般の学生と比べた運動部学生の就職率について、45校(48%)が「高い」と回答している。「把握していない」と回答した大学は28校(30%)で、「どちらともいえない」と回答した大学は20校(22%)であった。また、「低い」と回答した大学は無かった。

キャリア支援としては、「キャリアセンターにアスリート担当者を配置」や「体育会系専門の求人サイトを運営する会社の説明会参加等を促進」などがあった。



結果6 公式戦の平日開催を避ける取り組みについて約9割の大学が賛同している。

学生競技連盟や一部の大学における、公式戦の平日開催を避ける取り組みについて、86 校(95%)が「賛同する」と答えている。



作成:課外活動支援特別委員会 北徹朗、伊東克、髙橋宗良、西垣景太、重藤誠市郎、小林勝法

